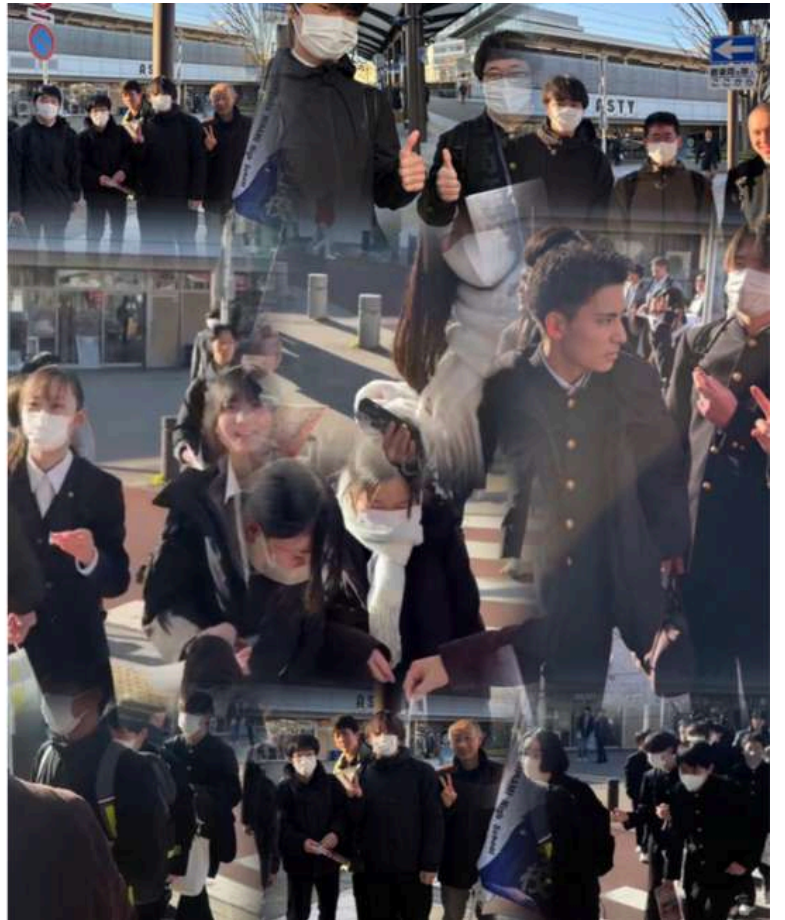




静岡県立御殿場南高校 進路バリエーション

3年生 共通テスト

1月17日（土）、18日（日）の2日間にわたって、大学入学共通テストが行われました。南高の3年生143名全員が三島の日本大学国際関係学部 の校舎で受験しました。生徒たちは8時半過ぎに大学を訪れ、緊張の面持ちながらも、激励に訪れた本校職員に「頑張ってきます」と笑顔で答え、会場に入場しました。共通テストは、大学入試の第一歩です。南高生全員が充実した春を迎えられるよう、職員一同、共通テスト後も私大や国公立2次試験、小論文・面接に向けた個別指導にあたります。



3年生共通テスト激励会!



共通テスト前日の1月16日（金）には、共通テスト激励会が行われました。副校長先生からは「勝ちにこだわれ」という激励の言葉がかけられ、進路課長の先生からは試験当日の諸注意と週明けの自己採点等のスケジュールが伝達されました。激励会の最後には応援団が3年生全員で組んだ円陣の中心でエールを送りました。`受験は団体戦、と言いますが、南高生たちの団結は、どこの高校にも負けない誇らしいものです。このチーム力で、どんな困難も乗り越えて行く南高生にぜひご期待下さい。



【御南の共通テスト分析】

毎年、御殿場南高校では、共通テスト終了後、各科目担当の先生方が、本試験の問題分析をした上で、生徒への学習アドバイスを行います。受験直後に河合塾や駿台など大手予備校の発表した平均点集計は、昨年度より難化の傾向にありましたが、大学入試センターが発表した中間集計もいくつかの教科で、難化の傾向が見られます。各科目について、出題されている内容のどの部分が、受験生にとって苦しかったのか。必ず正答しなくてはならなかった問題はどれか、各教科の先生方からのアドバイスを参考に、これからの学習にいかしてもらいたいと思います。

	満点	2026年度平均点 [中間集計]	2025年度平均点
英語リーディング	100	62.86	57.69
英語リスニング	100	54.67	61.31
数学ⅠA	100	28.54	53.51
数学ⅡB	100	56.42	51.56
国語	200	116.42	126.67
化学基礎	50	28.57	27.00
生物基礎	50	36.42	31.39
物理	100	45.55	58.96
化学	100	58.85	45.34
生物	100	55.03	52.21
地理総合・地理探究	100	61.90	57.48
歴史総合・日本史探究	100	62.31	56.99
歴史総合・世界史探究	100	60.91	66.12
公共、政治・経済	100	63.59	62.66
情報Ⅰ	100	56.66	69.26
6教科文系	1000	596	620
6教科理系	1000	603	633

※ 2026年度の科目平均点は、大学入試センターが1/23に発表した中間集計の数値です



国語

〔総評〕



解説

国語科 望月勇希 教諭

全体的に難易度はやや上がった印象を受ける。昨年度に引き続き選択肢は4択が多かったが、本文や選択肢の難易度、第3問以外において複数資料を組み合わせる問題の復活などで、昨年度に比べれば難しいと感じるのではないかと感じるのではないかと。現代文では第1問の分量の増加が見られ、第2問では生徒のノートと対話が出題された。また、第3問では試作問題や、昨年度の問題とは違う傾向の問題が出題された。古文は助動詞や助詞、敬語など文法の知識を細かく要求された印象があり、漢文も句法の知識をもとに考える問題が多かったように思う。

第1問 論理的文章

難易度は標準的。前半部に筆者の経験が描かれており随筆調の出だしになっているのが本文の特徴である。本文の量がやや増加し、「美」や「芸術」に関するそれなりに抽象度の高い文章ではあるが、難易度は過去に出題されているレベルとほぼ同様である。問題については、選択肢は昨年に続いて4択であり、本文の内容説明、理由説明の問題が中心であり、奇をてらった問題は少ない。今年度も良質なマーク式問題と言える。

第2問 文学的文章

難易度はやや難。戦前の描写と戦後の描写を対比させていくという構成の小説で、設問中に生徒の作成したノートと生徒の対話が組み込まれている。構成がやや複雑であり、問1～問5では各場面の心情を丁寧に読み、登場人物の心情を捉えることができるかがポイントとなる。逆に問6のノートと対話の問題は、全体の主題や構成の把握であり、問われている内容を把握した上で、マクロな読解をしていくことが要求されると言える。

第3問 実用的文章

難易度は標準～やや難。問題そのものの難易度はそれほど高くはないが、絵本の構成や工夫を考えるとという独特の問題であった。そのため試作問題や昨年度の共通テストで出題されたグラフや表が出題されておらず、そのようなタイプの問題で演習を重ねた受験生は肩透かしを食った感があるのではないかと。問題そのものは丁寧に文脈を追ったり、設問の趣旨を把握したりした上で問題を考えていけば、正答に辿り着くことは難しくないとと思われるが、設問の趣旨がやや分かりにくく、解答に時間がかかるとも考えられる。

第4問 古文

難易度はやや易～標準。同一文章から本文と別場面という構成だが、和歌が出題されていないことと、分量は昨年度と同程度で、かつ場面が分

かりやすいので難しい印象は受けにくい。今回、問1では単語の意味よりも、助動詞や助詞の知識が要求され、問2でも助動詞や敬語が要求されるなど、半分程度で文法に関わる問題が出題されたのが特徴的。細かい知識を要求された分、難易度はやや上がったであろうか。問3～5に関しては内容理解だが、3、4は段落内での正誤問題なので、注目すべきところは分かりやすい。5については別場面と本文全体を突き合わせて読む問題であるが、丁寧に読んでいけば答えに辿り着けると思われる。

大問5 漢文

難易度は標準的。二年連続の日本漢文であるが、ジャンルは詩論である。ただし、漢詩そのものは出題されておらず、漢詩についての基礎知識は要求されていない。一方で、語彙力や語法の知識をもとにした読解力を要求された印象がある。問1の「知言」は、受験生にとっては文脈で考えていく必要がある語彙である。問2以降も解釈や指示語を、句法の知識を活用しながら文脈に併せて考えていくという問題であり、漢文の読解力を測る丁寧な作りになっている。

英語 (Reading)

共通テストは形式変更の2年目で難化も予想されたが、答えに迷いやすい難問が減ったため、昨年度(平均点57.7点)よりも明確に易化した。第6問の小説問題も、一昨年度のように複数の登場人物のエピソードが複雑に交差し、それらを時系列順に並べ替えさせるような読みづらい形式ではなく、構成が非常にシンプルで内容も理解しやすかった。総語数も昨年度同様およそ5600語であり、依然として「思考力」を測るというより、要領よく手際よく設問を処理していく情報処理型の試験であった。

今年度も、本文の具体的な内容を抽象的に言い換える問題が散見された。例えば第5問問2では、本文の If you volunteer, you will receive a book coupon. という記述が、選択肢では Volunteers will be given a thank-you gift. と抽象化されている（まれに第5問問5のように、As we are still short of volunteers for the last day, would you kindly reconsider? という記述を Participate in "Story Time". と具体化させる問題も存在する）。

リーディングでは因果関係や逆接・譲歩表現に注目すべきであるが、今年度は追加表現や列挙表現が目立った。例えば第2問問4はHelgaのコメントについて正しいものを選ぶ問題であるが、Also や One more thing によって内容が次々と列挙され、各記述がそれぞれ選択肢に対応する形になっている。第4問でも One activity, Another activity, Third activity といった単純な列挙に基づく英文が扱われており、第7問ではマインド・ワンダリングに関する知見の具体的な活用方法が本文中で First, Next, Another suggestion, Finally と明確に列挙され、その内容を具体化させる設問が出題されている。したがって、因果関係や逆接・譲歩表現に加え、追加・列挙の表現も改めて整理しておく必要があるだろう。さらに第6問の小説問題では、今年度も錯時法（出来事が起こる時間的な順序



解説

英語科 大瀧林平 教諭

と、語り手が語る順序を意図的にずらす技法)が採用されており、第2段落以降に回想が挿入されている。

化学・化学基礎



解説

理科 加藤綾華 教諭

化学

解答する大問数は5題で変化なく、設問数は20から22に増加、マーク数は34から33に減少した。

・共通テスト特有の問題文を読み込んで既存の知識を活用しながら解答する問題が、複数題出題された。第1問の「アルコールロケット」の実験に関する問題は、実験内容をよく読み、状況を把握して解答を導く必要があり、特に時間を要する問題であった。

・例年総合問題が出題されている第5問では、「身のまわりに使われている化学物質」を題材に、理論化学、無機化学、有機化学すべての分野からの融合問題が出題された。

・「ポリイミド」の合成に関する問題が出題され、受験生にとっては見慣れない反応であり、与えられた情報をもとに解答を導く必要がある。

・全体を通して、知識問題と思考問題がバランスよく出題された。

化学基礎

・第1問、第2問を通じて基礎的な内容が出題された。また、全体として計算量が減少したため、昨年より取り組みやすくなったと思われる。

・大問数2問、小問数16は昨年と同様であったが、1問で複数のマークが必要な問題がなくなりマーク数は3減った。計算量も昨年よりは減少しており出題分量はやや減少した。

・第1問は化学基礎の全範囲から小問集合の形式で、基礎的な知識や理解を中心に出題された。

・第2問は肥料を題材とする総合問題であり、基礎的な内容が多角的に問われた。それに加えて、計算問題では問題文やグラフを読み取り解答を導く思考力が問われた。

・全体を通し、基礎的な内容から思考力を要する計算問題までバランスよく出題された。

他の科目は次号以降に掲載します